

総 説 (第21回徳島医学会賞受賞論文)

徳島市におけるもの忘れ検診 — 4年間の結果と展望 —

宮内 吉男, 植村 桂次, 武久 一郎, 豊崎 纏

徳島市医師会

(平成20年11月25日受付)

(平成20年11月28日受理)

徳島市医師会では、「かかりつけ医」によって、認知症を早期に発見し、適切に対応するために平成16年度よりもの忘れ検診を実施している。平成19年度までの4年間の結果を報告する。4年間で延べ30,250人が10項目からなる問診表による一次検診を受けた。要精査とされたのは8,009人であった。この中でMMSEによる二次検診を受けたのは、4,271人であった。二次検診で異常が疑われたものは1,014人で、そのうち681人が認知症と診断された。65歳未満の若年認知症は20人であった。これらの結果は、地域の中で患者や家族に接している「かかりつけ医」によるもの忘れ検診の意義と重要性を示している。さらにこの検診を通して発見された初期の認知症（若年者も含む）に対する地域での支援ネットワーク構築が今後の重要な課題と考えられた。

はじめに

徳島市医師会では、「かかりつけ医」によって、認知症を早期に発見し、正確な診断のもと適切な対応をするために、平成15年よりもの忘れ検診委員会を組織し準備を進めてきた。平成16年度、17年度は、徳島市医師会の単独事業としてのもの忘れ検診を実施した。2年間の実績により徳島市の理解を得て、平成18年度、19年度は、徳島市基本健康診査（以下、基本健診）の正式な検診項目に組み込まれ、実施されるようになった。当初より若年認知症の存在も考慮し、40歳以上の徳島市民を対象にして実施した。期間は基本健診に合わせて7月1日から10月31日までの4ヵ月間とした。

もの忘れ検診の実施方法

徳島市は平成19年4月現在、総人口は260,159人で、そのうち40歳以上は144,812人である。40歳以上の基本健診対象者は89,989人で、受診者は50,528人である。ものの忘れ検診は基本健診受診者のうち希望者に実施され、そのシステムのフローチャートは図1に示した。一次検診は基本健診に参加したすべての「かかりつけ医」で基本健診受診者のうち希望者に実施される。二次検診を実施する医療機関は手上げ方式で決定し、前もって研修会へ参加の上、登録した。平成19年度では登録医療機関106の中で実際に二次検診を実施したのは72の医療機関であった。一次検診は問診表（表1）で実施し、その内容は群馬県医師会と盛岡市医師会のものを参考とさせていただき作成した^{1,2)}。10項目の問診表のうち3項目以上を要精査とし、該当者は二次検診を受けることとし

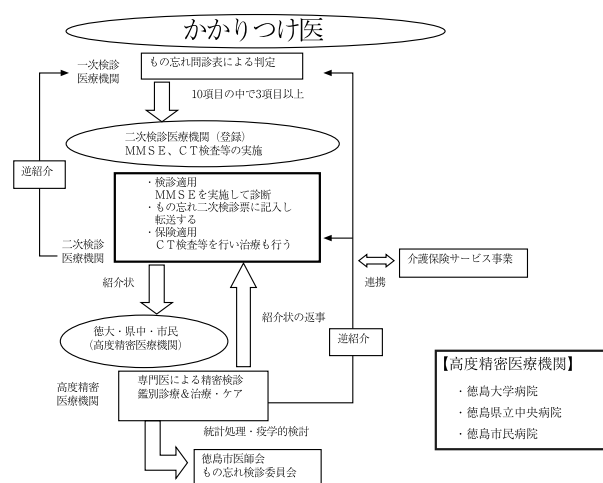


図1 もの忘れ検診のフローチャート

表1 もの忘れ検診（一次検診・二次検診）

【一次検診】 問診表 <u>次の質問の中から当てはまるものに、○をつけて下さい。</u> 1. 家族や周囲の人にももの忘れがあるとされる。 2. 物の名前や人の名前が思い出せないことがよくある。 3. 毎日1回以上、しまい忘れがあり、探すことが多い。 4. 今日が何月何日なのか、思い出せないことがある。 5. 朝食の内容を思い出せないことがある。 6. 計算の間違いが多い。または勘定を間違える。 7. 以前に比べて、新聞やテレビを見るのが面倒になった。 8. 最近、イライラしたり、気分がすぐれないことがある。 9. 野菜の名前を5個以上言えない。 10. 現在の総理大臣の名前を知らない。 【二次検診】 1. 質問形式による検査（MMSE：簡易知能評価スケール） 2. 原則として MMSE 24点以下の場合、頭部 CT などの検査や診察を実施
--

表2 総合診断結果の年度別比較

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	総計
基本健康 診査受診者	53,290人	54,889人	49,779人	50,528人	208,486人
一次検診 受診者	3,643人 (6.8%)	2,651人 (4.8%)	12,276人 (24.7%)	11,680人 (23.1%)	30,250人
一次検診で 要精査と された者	1,061人	692人	3,235人	3,021人	8,009人
二次検診 受診者	755人 (71.2%)	502人 (72.5%)	1,651人 (51.0%)	1,363人 (45.1%)	4,271人 (53.3%)
二次検診で 異常が疑わ れた者	210人	142人	371人	291人	1,014人
認知症	128人	107人	260人	186人	681人
内若年者 (65歳未満)	3人	4人	9人	4人	20人

た。二次検診では、簡易知能評価スケールとして MMSE（Mini-Mental State Examination）を用いた³⁾。MMSE の結果、24点以下の場合には、頭部 CT や MRI などの画像診断及び必要な検査を実施することとした（表1）。カットオフポイントを24点としているが、25点以上でも二次検診担当の「かかりつけ医」が必要と判断するならば画像診断などの検査を実施してよいとしている。最終的な認知症の診断は、病歴を含めた総合的臨床所見に画像所見も考慮してなされた。また二次検診で診断がつかなかった場合は、高度精密医療機関（徳島大学病院、徳島県立中央病院、徳島市民病院）に紹介することとした。

一次検診結果について

問診表での一次検診は、平成19年度では195の医療機関で実施されている。一次検診受診者は平成16年度、17年度では、3,643人、2,651人であった。しかし、基本健診の正式な検診項目に組み込まれた平成18年度、19年度は、12,276人、11,680人と著明に増加している。問診表10項目のうち3項目以上に該当し要精査とされた者は平成16年度、17年度では、1,061人、692人であった。一次検診受診者の増加した平成18年度、19年度は、3,235人、3,021人と増加している。要精査とされた者で実際に二次検診を受診した数は、平成16年度、17年度では、755人、502人であったが、平成18年度、19年度は、1,651人、1,363人と増加している。しかしながら、二次検診を受けた者の割合は、当初2年間の70%台から50%前後に低下している（表2）。

二次検診結果について

二次検診として MMSE を実施している。二次検診受診者のうち、MMSE 24点以下を原則とする判定基準によって異常が疑われたものは、平成16年度は755人中210人、平成17年度502人中142人、平成18年度1,651人中371人、平成19年度1,363人中291人であった（表2）。異常が疑われた全例に実施すべき頭部 CT、MRI などの画像診断は未実施例もあり、診断精度を高める意味でも今後の課題と考えられる。また、高度精密医療機関への紹介は、4年間で25人であった。

もの忘れ検診総合診断結果

二次検診の結果、異常が疑われた中で認知症（疑いも含む）と診断されたものは平成16年度で128人、平成17年度107人、平成18年度260人、平成19年度186人であった（表2）。さらに詳しく見てみると、平成16年度ではアルツハイマー型認知症（以下 AD）97人、血管性認知症（以下 VD）31人、平成17年度では AD81人、VD26人、平成18年度では AD 147人、VD 112人、平成19年度では AD 123人、VD 55人となっている（図2）。さらに AD、VD 以外の認知症として平成18年度以後、レビー小体型認知症、正常圧水頭症、ヘルペス脳炎後遺症などが報告されている。

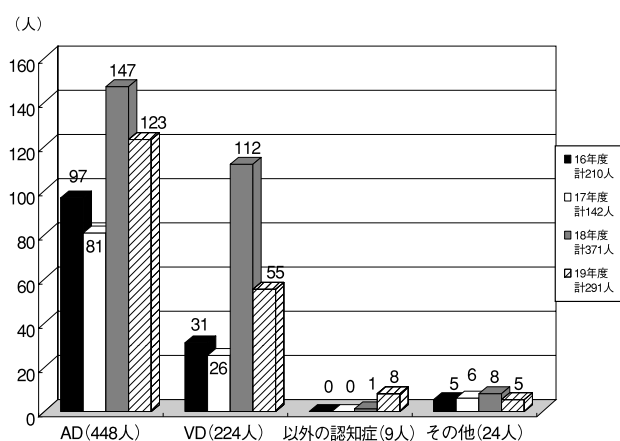


図2 徳島市もの忘れ検診総合診断結果

もの忘れ検診における「かかりつけ医」の役割

平成16年の市民公開講座「もの忘れフォーラム」の市民へのアンケートでは「もの忘れ・認知症でご心配のとき、どなたか相談先をお持ちですか？」の問いに対して、67%の市民が「かかりつけ医」をあげている。治療の開始が遅れる程、治療効果が充分期待できないことを考えると、家族がわずかな変化に気づき最初に相談に行く「かかりつけ医」の役割は極めて重要であるといえる^{4,5)}。

そのために、もの忘れ検診委員会では、「かかりつけ医」に対する研修会を毎年開催し、「かかりつけ医」の認知症に対する認識を深め、その対応力を向上させることを目標としてきた。この4年間の結果をみると、その成果が着実に得られていると考えられる。

おわりに

4年間の全体を概観してみると、基本健診受診者は延べ208,486人にのぼる。そのうち一次検診を受けたのは30,250人である。その中で要精査とされた者は8,009人であったが、実際に二次検診を受けたのは4,271人で53.3%にすぎなかった。つまり、約4,000人弱が二次検診を受けていないことになる。そう多くはないであろうが、この中に認知症の者が含まれている可能性がある。早期発見、早期対応の考えからは残念な結果である。この点に

おいて、「かかりつけ医」による一次検診要精査者の二次検診への勧奨が大切であると考えられる。また、二次検診で異常が疑われた者は1,014人で、そのうち認知症と診断されたのは681人であった。65歳未満の若年者は4年間で20人であり、そのうちAD18人、VD2人であった(表2)。ADの最少年齢は42歳であった。これらの結果は、もの忘れ検診が目指している若年者も含めた認知症の早期発見・早期対応のためには、地域の中で患者や家族に接している「かかりつけ医」の役割が重要で、欠かせないものであることを示している。

もの忘れ検診によって、より早期に診断することは、患者本人や家族にとって、その対応を考える時間的余裕をもたらすことができると考えられる。しかし、現時点においては、認知症患者に対する地域での支援作りはいまだに不十分な状況である。とくに、この4年間の検診を通して発見された初期および若年者の認知症患者に対する地域における支援ネットワークの構築が今後の重要な課題と考えられる。

謝 辞

もの忘れ検診事業の立ち上げ、推進に協力頂いたもの忘れ検診委員会の各位に厚く御礼申し上げます。ならびにこの検診に参加し、支えてくださった医師会員の皆様に深く感謝申し上げます。

文 献

- 1) 月岡関夫：地域における痴呆の早期発見と対応 群馬県における「もの忘れ検診」について. 老年精神医学雑誌, 14: 26-34, 2003
- 2) 金子博純：「もの忘れ検診」と地域づくり. 治療, 86: 174-178, 2004
- 3) 宮永和夫：ケアネットワークの構築 早期発見のための地域連帯. Geriatr. Med., 45: 1093-1105, 2007
- 4) 臼井康雄, 金子博純：医師会と専門医との連携について. 老年精神医学雑誌, 16: 182-188, 2005
- 5) 金子博純：認知症を地域で支える 地域医師会の役割. 老年精神医学雑誌, 17: 496-502, 2006

*Memory screening in Tokushima City
-the result of 4 years and the future vision-*

Yoshio Miyauchi, Keiji Uemura, Ichiro Takehisa, and Matome Toyosaki

Tokushima City Medical Association, Tokushima, Japan

SUMMARY

Tokushima City Medical Association has conducted memory screening by “primary care doctors” since fiscal year 2004 to detect dementia in an early stage and to take its appropriate medical care. The Association would like to report 4-year result of its activities till fiscal 2007. 30,250 people went through primary medical examination in four years by an interview sheet consisting of 10 questionnaire items. Among them, 8,009 people needed further detailed examination. 4,271 people requiring detailed examination took secondary medical examination by MMSE. 1,014 people were suspected of abnormality, and 681 people out of them were diagnosed as dementia. There were 20 juvenile dementia patients who were less than 65 years of age. These results show the significance and importance of memory screening by “primary care doctors” who see patients and their family in their community.

Key words : dementia, detect in an early stage, primary care doctor, memory screening,
Tokushima City Medical Association